



異なるプロトコル間でのアップグレードの実行

この付録では、SCCP シグナリング イメージから MGCP、SIP、または H.323 のいずれかのシグナリング イメージへのアップグレードを実行する方法について説明します。

Cisco CallManager の管理者が TFTP サーバに保存している新しいシグナリング イメージを自動的にダウンロードするように Cisco ATA を設定できます。そのためには、Cisco ATA 設定ファイルで *upgradecode* パラメータを設定します。設定ファイルの作成については、[P.3-13](#) の「特定の Cisco ATA 設定ファイルの作成」を参照してください。

upgradecode パラメータの構文

```
upgradecode:3,0x301,0x0400,0x0200,tftp_server_ip,69,image_id,image_file_name
```

定義

- 変数 *tftp_server_ip* の前に来る 16 進値は、常に構文に示された値でなくてはなりません。
- *tftp_server_ip* は、最新のシグナリング イメージ ファイルが保存されている TFTP サーバです。
- *image_id* は、固有の 32 ビットの整数で、アップグレードごとに異なります。この 32 ビットの整数値は、イメージファイルの名前 (*image_file_name*) に示された作成日を使用し、その先頭に 0x を追加したものです。たとえば、*image_file_name* が *ata186-v2-14-020508a.kxz* である場合、作成日は 020508a なので、*image_id* は 0x020508a となります。
- *image_file_name* は、アップグレードするシグナリング イメージのファイル名です。*image_file_name* の形式は次のとおりです。

```
ata186-v{M}-{N}-{yyymmdd}{a-f}{ext}
```

 - *M* は、メジャーバージョン番号です。
 - *N* は、マイナーバージョン番号 (常に 2 桁) です。
 - *yyymmdd* は、西暦下 2 桁、2 桁表記の月、および 2 桁表記の日です。
 - *a-f* はビルド文字です (-*yyymmdd* と *a-f* の組み合わせによってイメージの作成日が形成されます)。
 - *ext* は、2.11 以前のバージョンからのアップグレードでは常に *.kxz* でなければなりません。2.12 以降のバージョンからの Cisco ATA186 のアップグレードでは *.zup* でかまいませんが、Cisco ATA188 のアップグレードでは *.zup* にする必要があります。

プロセス

Cisco CallManager の管理者が新しいシグナリング イメージ (image_id の変更で示される) を TFTP サーバに保存するたびに、Cisco ATA ではそのファームウェアが新しい image_file_name でアップデートされます。Cisco ATA は、TFTP サーバへの接続にあたって、*upgradecode* パラメータの値に含まれる TFTP サーバの IP アドレスを使用します。

例

upgradecode パラメータの値は次のようになります。

```
upgradecode:3,0x301,0x0400,0x0200,192.168.2.170,69,0x020723a,ata186-v2-15-020723a.zup
```

この指定により、Cisco ATA は TFTP サーバの IP アドレス 192.168.2.170 から *ata186-v2-15-020723a.zup* ファイルをダウンロードし、ファームウェアを *ata186-v2-15-020723a.zup* にアップデートします。このダウンロードは、*upgradecode* パラメータからのディレクティブが含まれる設定ファイルを Cisco ATA がダウンロードした後で行われます。また、アップグレードが実行されるのは、Cisco ATA の内部でキャッシュされた image_id の値が 0x020723a と異なる場合に限られます。